

HOSOMI MUSEUM DIGITAL NEWS LETTER

トピックス情報

- 1) 表紙
- 2) 展覧会の「ここが見どころ①」
- 3) 展覧会の「ここが見どころ②」
- 4) 展覧会の「ここが見どころ③」
- 5) イベントレポート

陶磁器に出会うIV

中国の小さなやきもの —美は掌中に在り—

しょうちゅう

陶磁器に出会うIV

中国の
小さな
やきもの

しょうちゅう
—美は掌中に在り—

Tiny Chinese Ceramics
—Treasures on a Palm

平成22年
6月5日(土) → 7月25日(日)

主催：細見美術館 毎日新聞社
休館日：毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)
開館時間：午前10時～午後6時(入館は5時30分まで)
入館料：一般1000円(800円) 学生800円(600円)
※()内は20名以上の団体料金
会場：細見美術館 京都市左京区岡崎越前寺町 6-3
075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

ご優待
一般/1,000円～800円 学生/800円～600円
本館にて4名以上で2000円引。

ホ 細見美術館
<http://www.emuseum.or.jp>

陶磁器に出会うシリーズも四回目となった今回は「中国の小さなやきもの」が登場します。壮大な建造物や美術品のイメージが強い中国ですが、一方では、本展のサブタイトル「美は掌中に在り」にもあるように、手のひらに載るような小さなものへの賞賛や慈しむ気持ちが込められた作品も多く作られてきました。

本展では、新石器時代から清時代末期までの約6000年の間に、中国の様々な地域で作られた副葬品や子供の玩具など、愛らしく魅力的なやきものをご紹介します。この機会に、小さくても実用品と同じ、若しくはそれ以上に丁寧に作られた小さなやきものを通して、死後の世界を信じていた古代中国の人々の思いや精密な美の世界を生み出した陶工の息吹を感じていただければと思います。

◀ 中国の小さなやきものチラシ表面

細見美術館

2 0 1 0
S U M M E R
I S S U E
N U M B E R 0 1

ふくよかでありながら、 キリリと引き締まった姿 ——

高さ、胴径ともに5cmに満たない二つの小壺。こんなサイズなのに、
ろくろ轆轤で成形されています。ふくよかでありながら、キリリと引き締まった姿。見つめていると、優美な貴族文化の香が漂って来る気がします。所蔵者によると、三彩は2001年夏、白磁はそのほぼ1ヶ月後に、東京・京橋などの骨董店で購入したそうです。



(左)白磁有蓋壺 唐 7-8世紀 (右)三彩有蓋壺 唐 7-8世紀

唐代の王族や有力貴族らは死後の世界での暮らしに備え、従者や馬、駱駝などの動物や様々な生活用品を陶磁器で作り、墓に副葬しました。この壺もそうした明器めいきの一つ。白磁の胴部裏側に緑の染みさびがかすかに残っています。一緒に埋めてあった青銅製品の錆が付着した跡でしょうか。

コレクターに
聞きました！
..



陶磁器に出会うⅣ
中国の小さなやきもの — 美は掌中に在り —
展覧会の「ここ」が見どころ①

宋赤絵の登場

中国の友人によると、北方、内モンゴル自治区などのお墓からしばしば出土するというミニチュア人形。夫婦と子供、といった具合に、なぜか家族そろった姿が多いのが不思議です。幼な子が亡くなり、あの世で淋しい思いをしないようにと、両親が心を込めて埋めたのかも知れません。遊牧地帯に相応しく、彩り鮮やかな馬の人形が添えられていることも。



赤絵人形 金～元 13世紀

日本ではこうした色絵を宋赤絵と呼んでいます。中国で初めて赤や緑、黄などのカラフルな絵の具で文様を描いたやきもの。正確に言えば、北宋に代わって北部一帯を支配した金の時代に始まり、元、明代に流行しました。法政大学総長で哲学者の谷川徹三(1895-1989)や歌人會津八一(1881-1969)のコレクションに良く似た品があったのを覚えています。

コレクターに
聞きました！
..



展覧会の「ここが見どころ②」

陶磁器に出会うⅣ
中国の小さなやきもの — 美は掌中に在り —

展覧会の「ここ」が見どころ③

文房具？ おもちゃ？ ——

タイヤキ風の魚は恐らく玩具。リング状の取っ手が付いているので、あるいは書物や紙などを押さえる重し用の鎮^{ちん}かも知れません。中国語の魚は余と同じ発音で、余裕に通じる縁起の良いデザイン。文房具にはピッタリと言えるでしょう。この品が作られた晩唐の湖南省長沙窯は輸出全盛期で、主力製品だった水注が中東でも発掘されています。



青磁褐彩魚 唐 9世紀



青磁羊 五代～北宋 10～11世紀

可愛らしい山羊はそれから100年余り後の作。産地は不詳。子供のおもちゃと見る人が大半ですが、確かな事は分かりません。鳥や動物、人間などを象ったこの手の青磁や黒釉の小品は数多く、丹念に探せば、ポケットマネーでまだまだ十分面白い品が手に入る収集分野です。長沙窯も同じですから、あなたも挑戦してみませんか。

コレクターに
聞きました！
..



ARTCUBE SHOP

ぜひお気に入りの一点を探してみてください。



神坂雪佳「狗児」の絵を基に作られた
このシリーズはお部屋のインテリアにも。
見ているだけでホッとする、
愛らしさがあります。



これからの暑い季節にもオススメ！
澄んだ色目が目にも涼やかなセットです。



ARTCUBE SHOPお問合せ先 TEL075-761-5700

「琳派・若冲と雅の世界」(2010年4月9日(金)～5月16日(日) 会場 富山県水墨美術)が、無事終了いたしました。たくさんのご来場、ありがとうございました！

2010年
7月3日(土)～
8月22日(日)
会場
北海道立函館美術館
TEL0138-56-6311

北日本新聞 2010年5月5日、9日、15日より